

# 袋井市高齢者の生活と意識に関する調査結果概要及び 袋井市長寿しあわせ計画の策定について

## 1 調査の概要

### (1) 調査の目的

「第9次高齢者保健福祉計画及び第8期介護保険事業計画」の策定にあたり、今後の保健福祉行政に役立てるために、市民の皆様の普段の生活や健康などに関して調査を実施しました。

### (2) 調査対象・回収等

	一般高齢者	要支援認定者・事業対象者	要介護認定者
調査対象	袋井市在住の事業対象者、要支援・要介護認定を受けていない65歳以上の高齢者	袋井市在住の要支援認定者及び事業対象者(※)	袋井市在住の要介護認定者
配布・回収方法	郵送による配布・回収		
調査期間	令和2年2月7日～2月21日		
配布数(A)	2,000通	800通	1,200通
回収数(B)	1,348通	479通	700通
回収率(B/A)	67.4%	59.9%	58.3%

※事業対象者とは…要介護・要支援には該当しないが、総合事業のチェックリストで何らかの支援が必要と判定された方です。

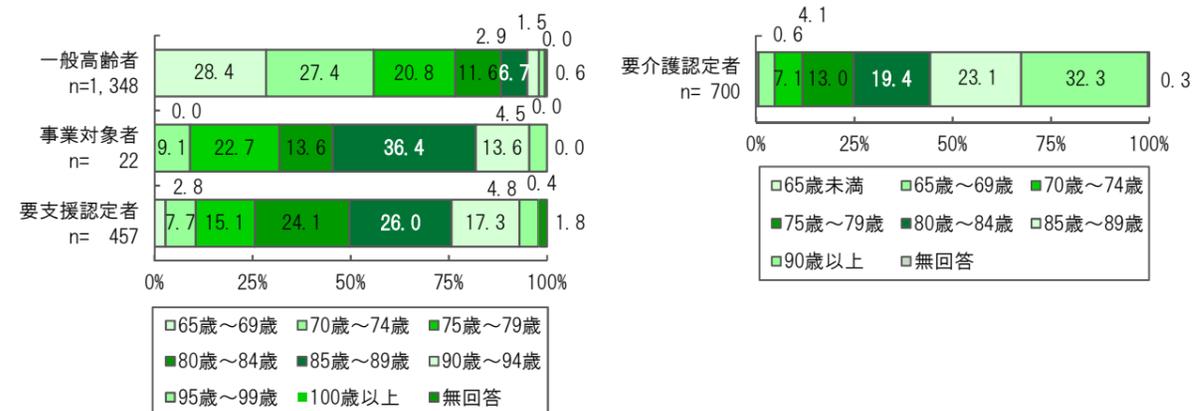
## 2 調査結果

### (1) 回答者の属性

#### ■ 性別 (報告書 P: 3)



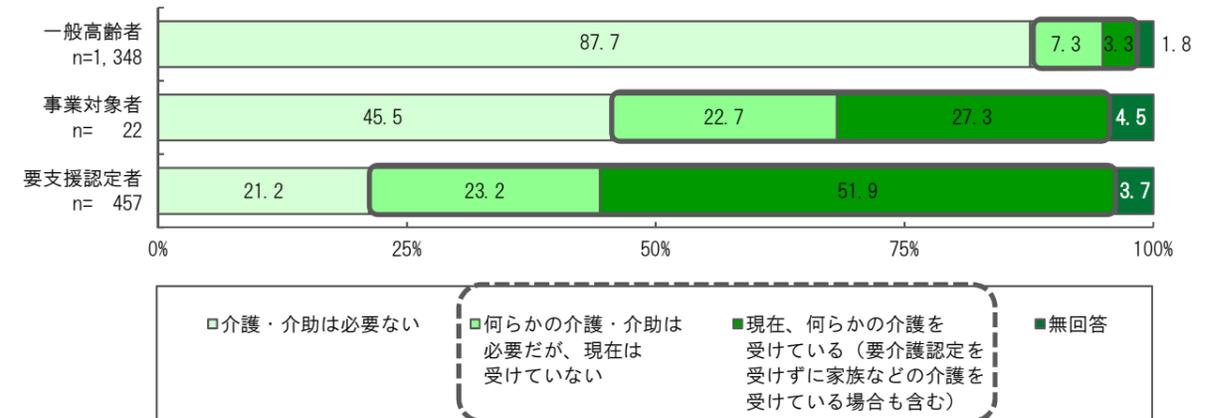
#### ■ 年齢 (報告書 P4)



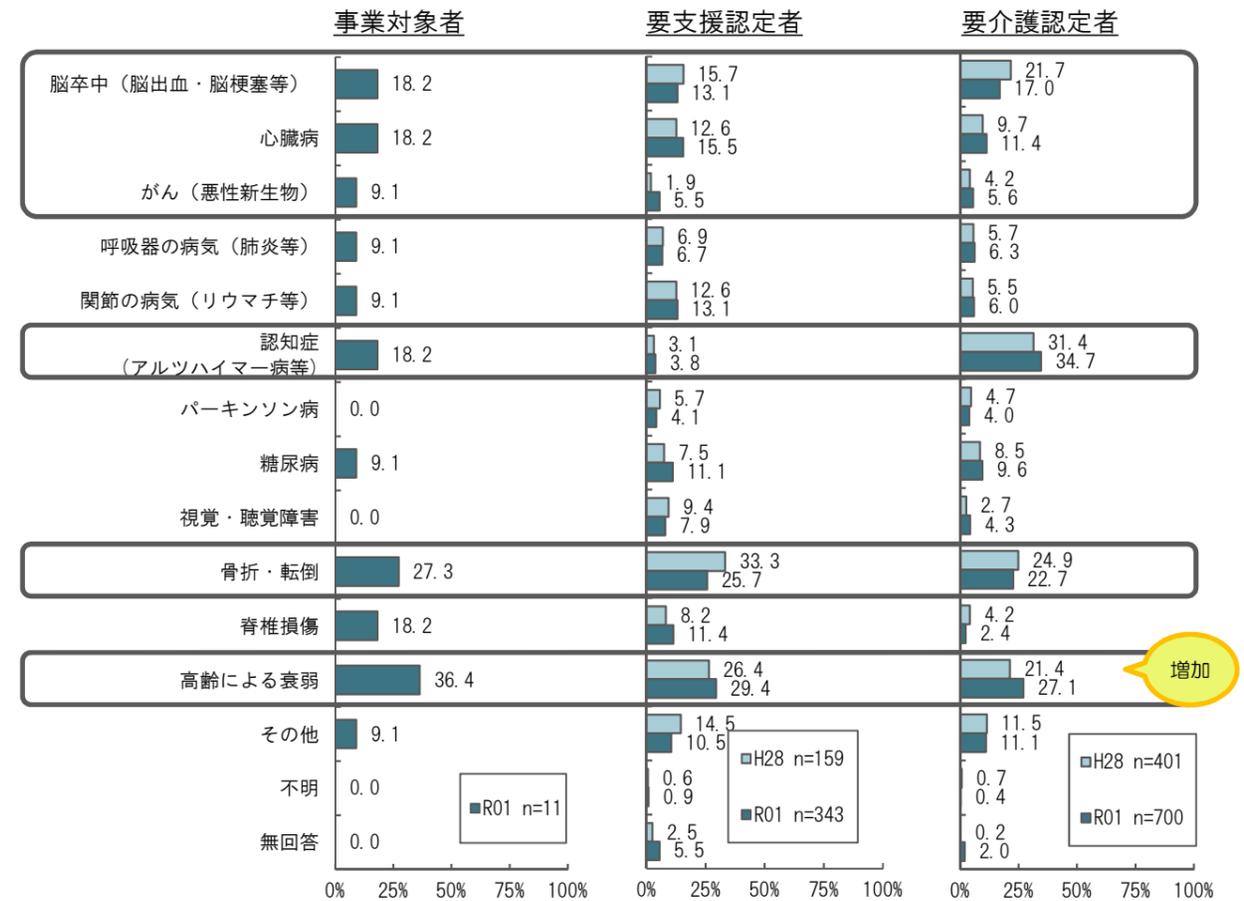
### (2) 日常生活における介護(介助)について

- 介護(介助)を必要とする方は、要支援認定者の75%、事業対象者の50%である。
- 一般高齢者の中で介護(介助)を必要とする方は10.6%あるが、公的サービスは活用していない。
- 介護(介助)が必要になった主な原因は、高齢による衰弱(フレイル)、骨折・転倒、認知症、脳卒中、心臓病等である。

#### ■ 普段の生活で介護・介助は必要か (報告書:P8)



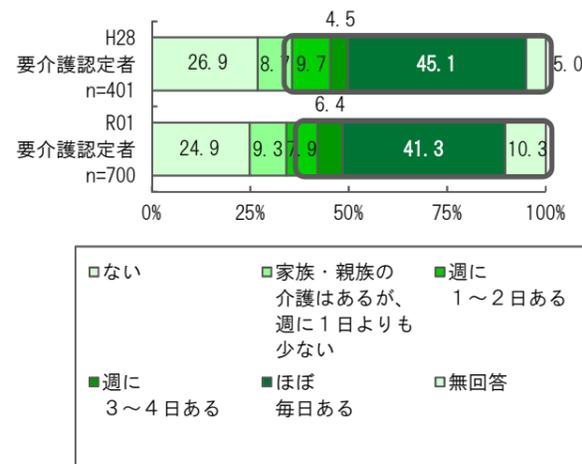
#### ■ 介護・介助が必要になった主な原因 (事業対象者・要支援認定者のみ) (経年比較) (報告書:P9、189、190)



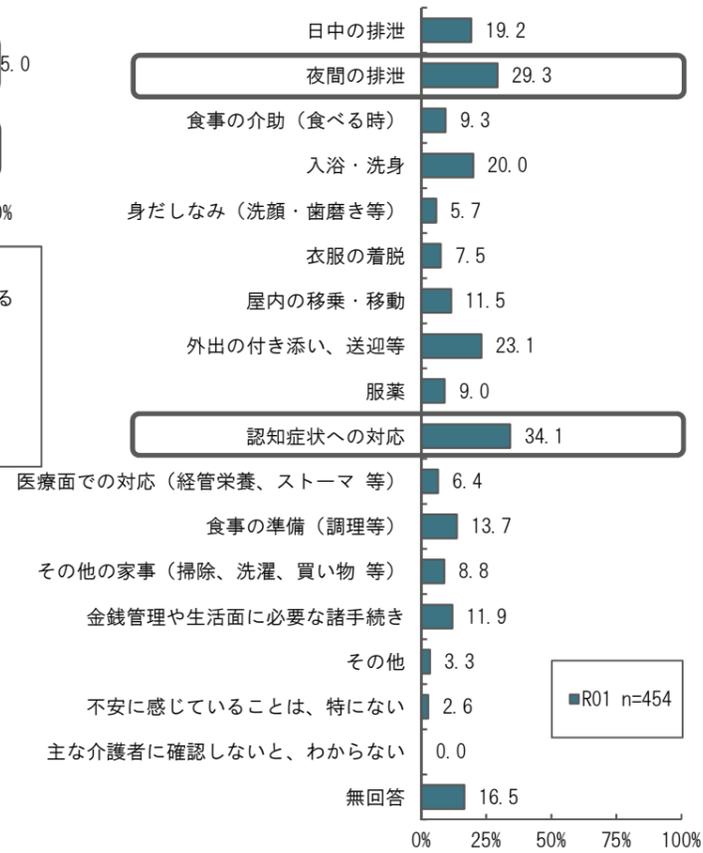
### (3) 主な介護者について

- 家族や親族からの介護を受けている方は64.9%の状況であり、前回調査より減少している。
- 主な介護者が不安を感じる介護等は、「認知症状への対応」「夜間の排泄」が高くなっている。

■ 家族や親族からの介護の頻度 (経年比較) (報告書:P220)



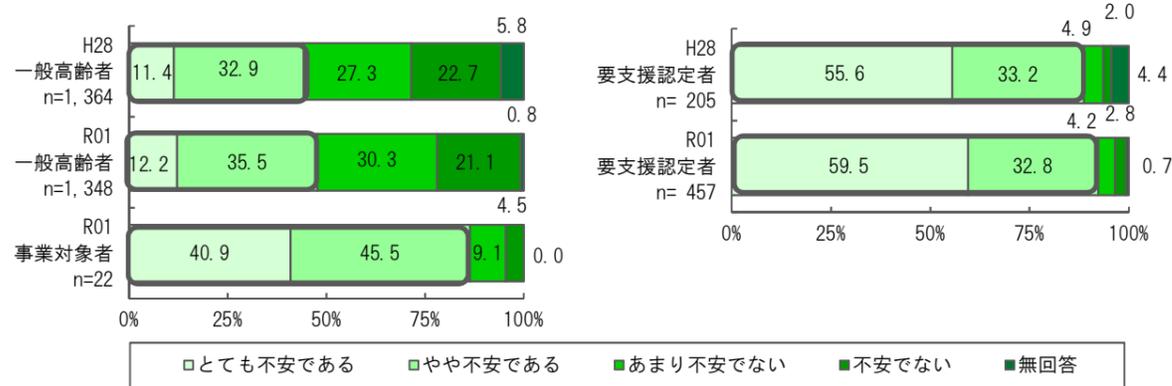
■ 主な介護者の方が不安を感じる介護等 (報告書:P222)



### (4) 転倒に対する不安について

- 転倒に対する不安がある方は、一般高齢者では47.7%、要支援認定者では92.3%と前回調査より微増している。また、事業対象者は86.4%が不安を感じている。

■ 転倒に対する不安は大きい (経年比較) (報告書:P17)

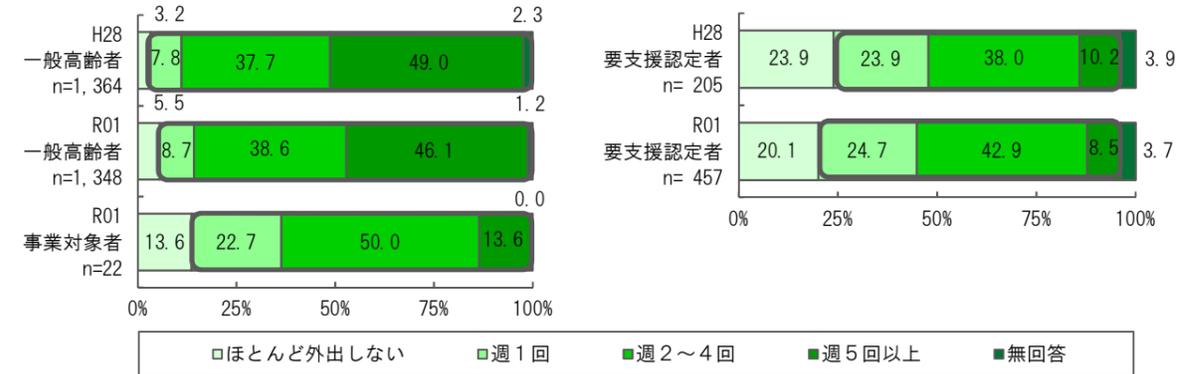


※平成28年度は事業対象者の調査は未実施。

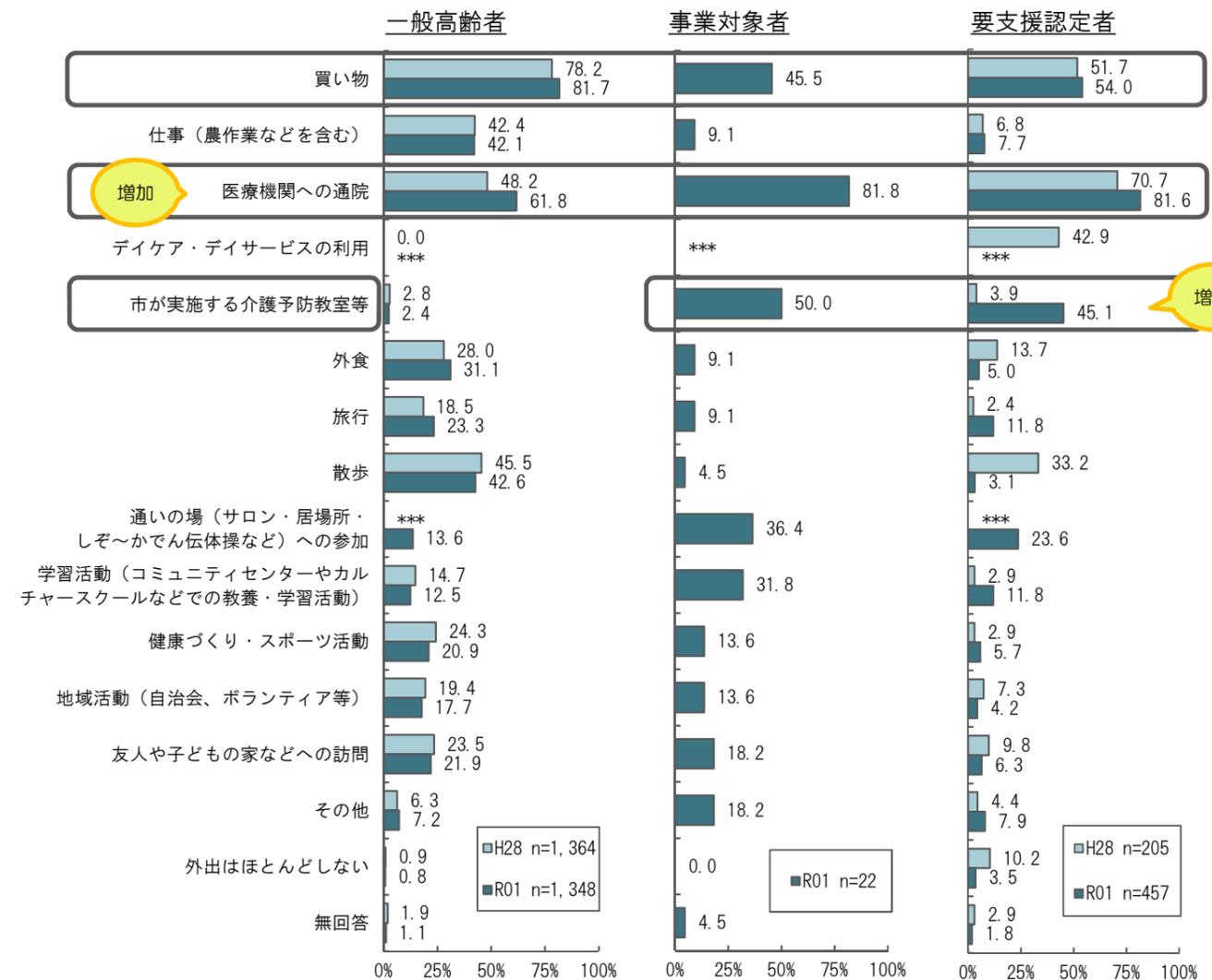
### (5) 外出について

- 週1回以上外出している方は、前回調査より若干減少している。
- 外出の理由は、買い物、通院が共通して多い。事業対象者、要支援認定者では、介護予防教室への外出も多い。

■ 週に1回以上外出しているか (経年比較) (報告書:P18)



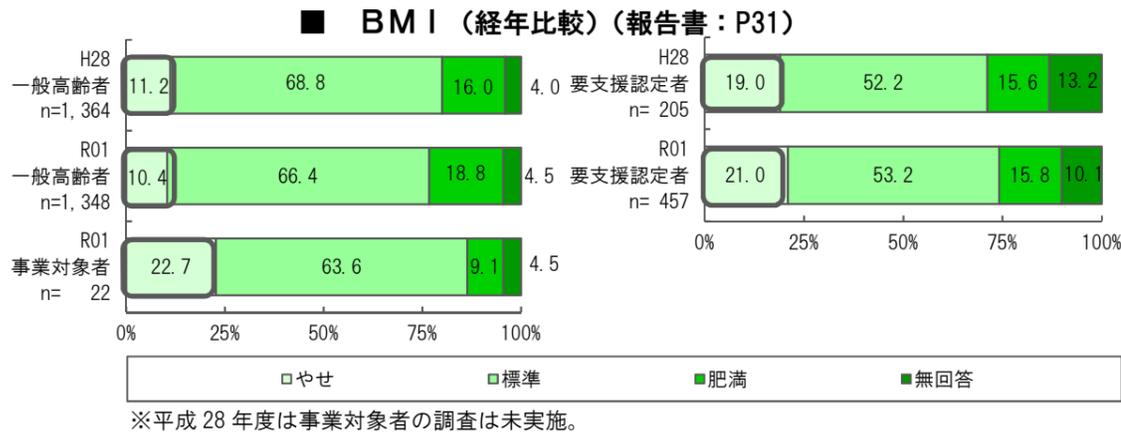
■ 外出理由 (経年比較) (報告書:P24)



※平成28年度は事業対象者の調査は未実施。  
※「\*\*\*」は選択肢がなかったもの

(6) BMIについて ※身長と体重から「やせ」や「肥満」を判定する指標。高齢者においては低栄養を発見する指標にもなる。

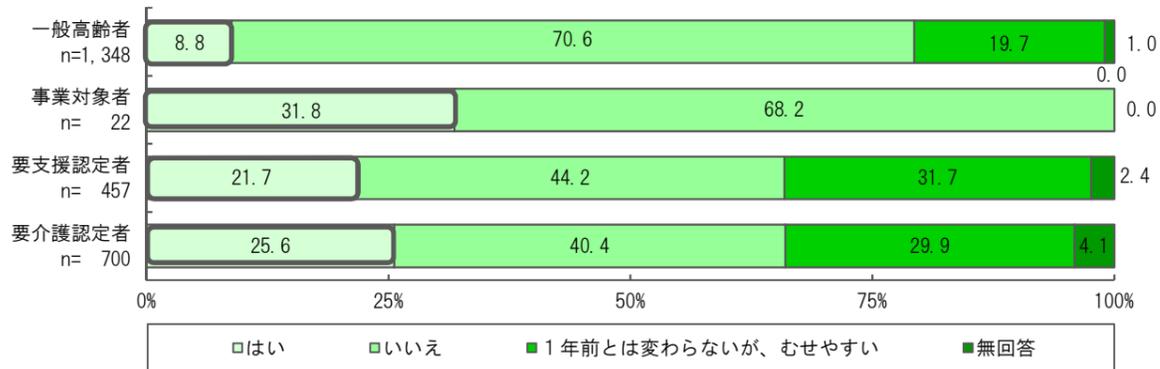
○BMIでやせに該当する方は一般高齢者で10.4%となり、前回調査より微減、一方で要支援認定者は21.0%となり、微増している。事業対象者はやせが22.7%である。



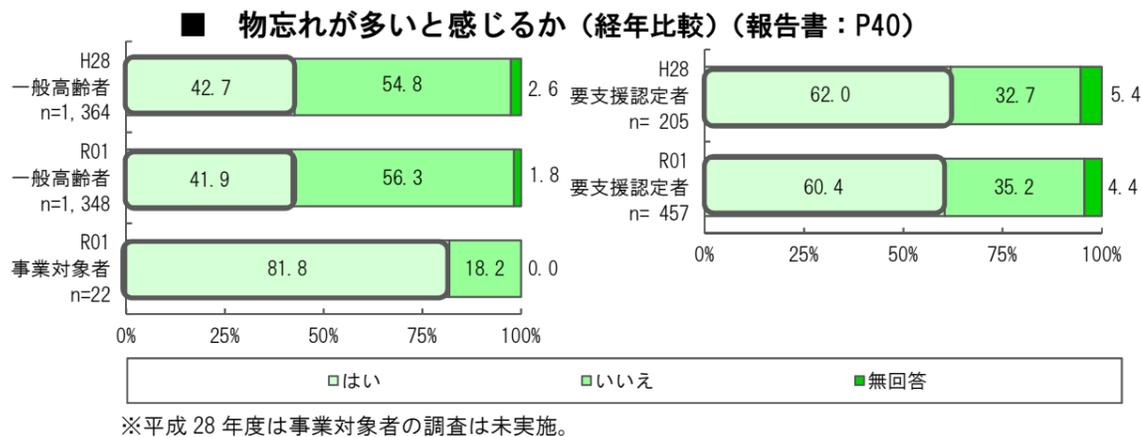
(7) 日常生活について

○食べ物等でむせることが多くなった方は、一般高齢者で8.8%、事業対象者で31.8%、要支援認定者で21.7%、要介護認定者で25.6%いる。

■ 1年前に比べ、食べ物や汁物、飲み物でむせることが多くなったか (報告書:P34、193)

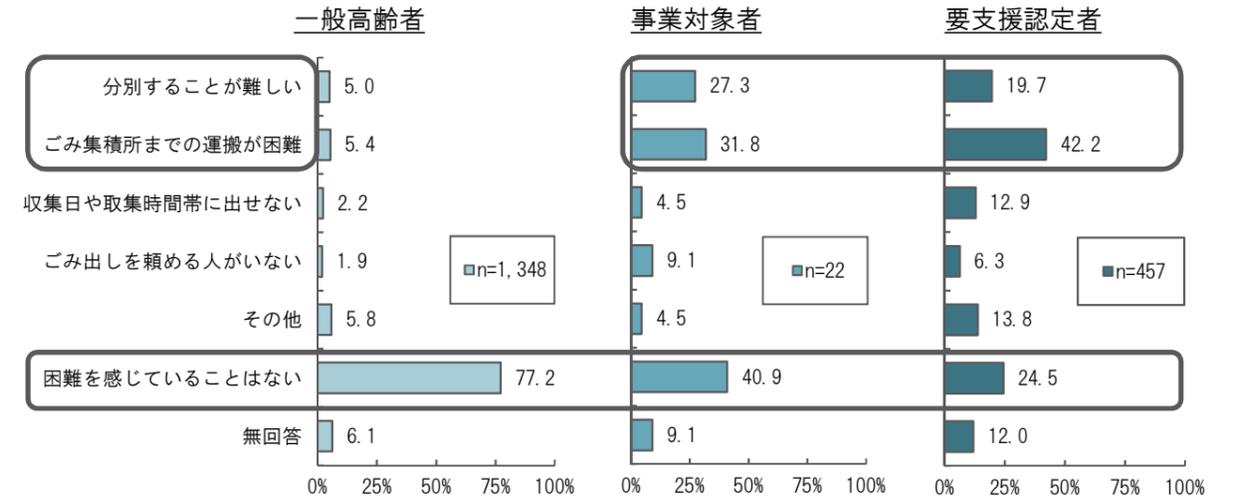


○物忘れが多いと感じる方は、一般高齢者で41.9%、要支援認定者で60.4%と前回調査より微減している。事業対象者は81.8%が物忘れが多いと感じている。



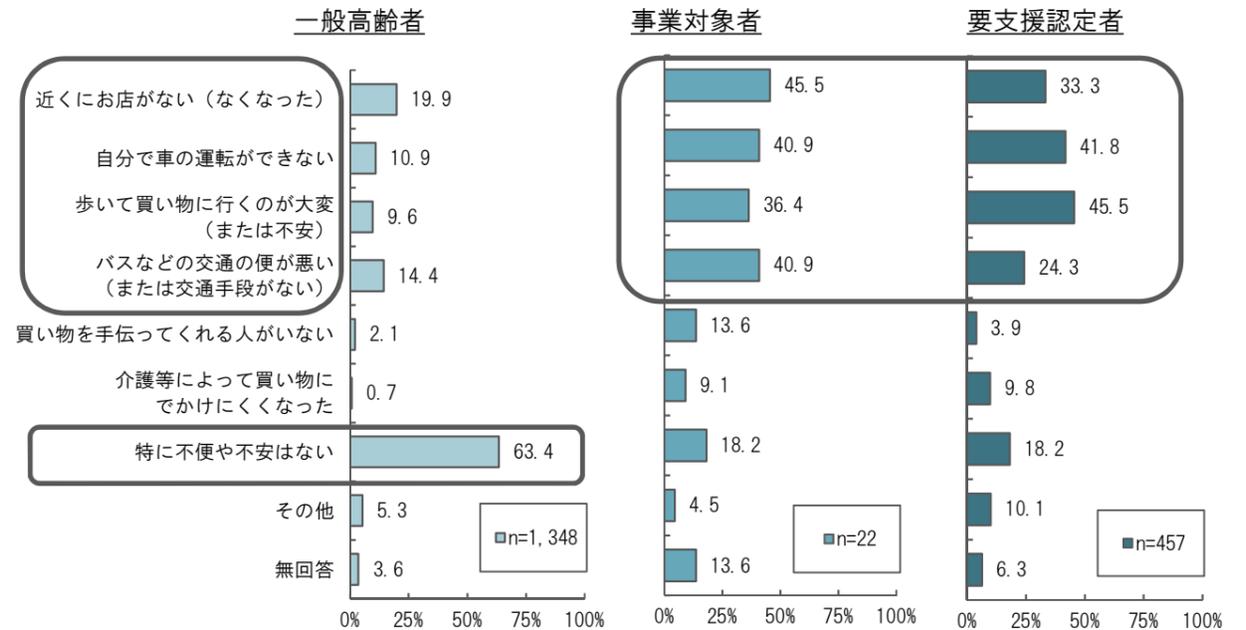
○ごみ出しの際に、事業対象者、要支援認定者ではごみの分別やごみ集積所までの運搬で困難に感じている方が多い。一般高齢者では困難に感じていることはないが最も多い。

■ ごみ出しで困難を感じていること (報告書:P53)



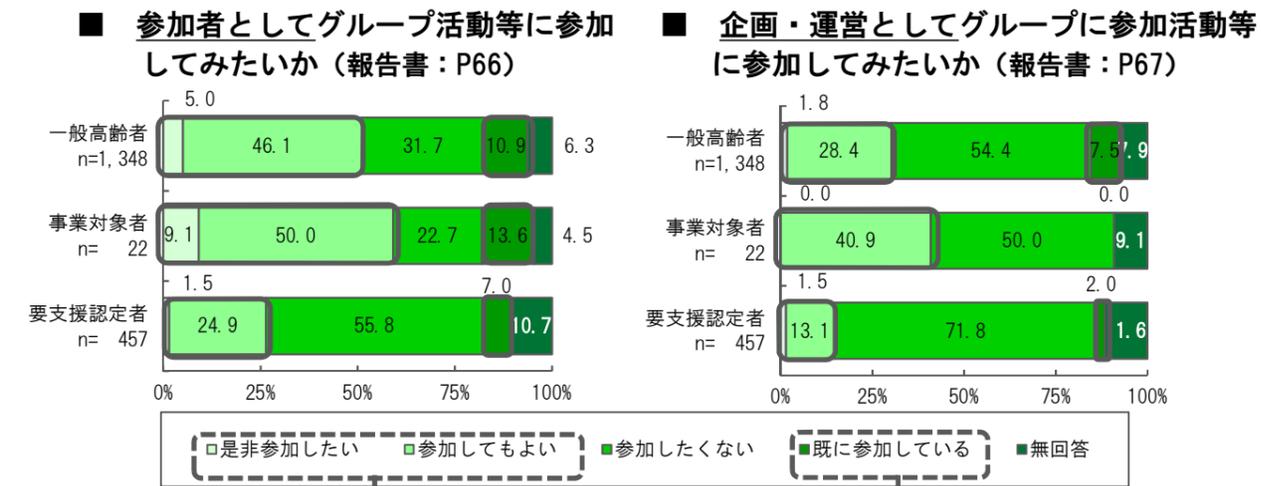
○買い物で不安を感じていることは、事業対象者、要支援認定者では近くにお店がない、買い物に行く足がない等といった意見が多い。一般高齢者では特に不便や不安はないが最も多い。

■ 食料品や日用品の買い物で不安を感じていること (報告書:P54)

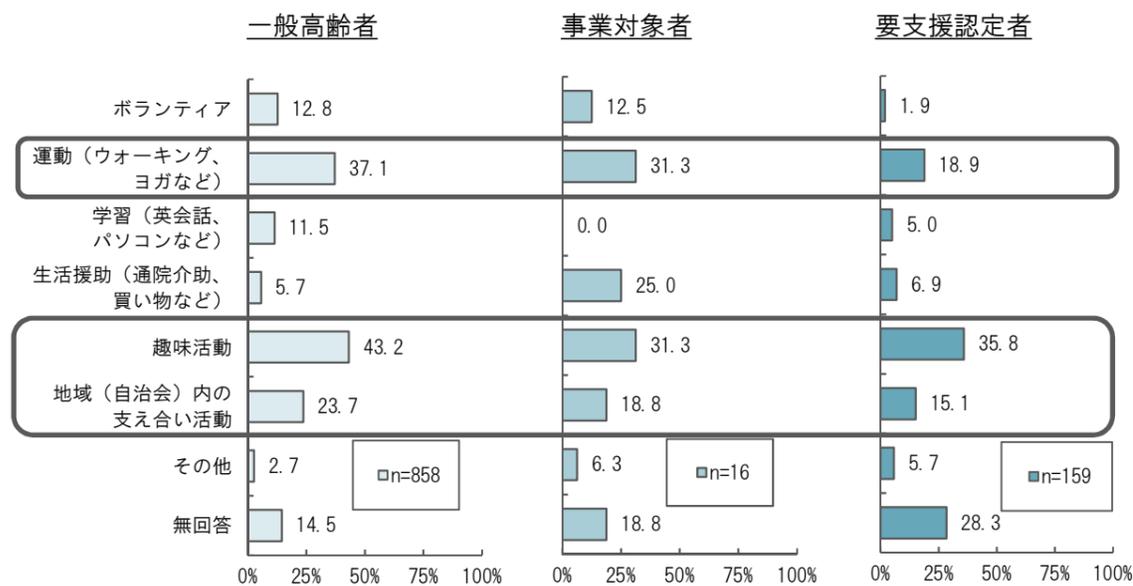


(8) 地域での活動について

- 地域活動に参加者として参加意向のある方と既に参加している方は、一般高齢者では62%、事業対象者では72.7%、要支援認定者では33.4%である。
- 地域活動に企画・運営として参加意向のある方と既に参加している方は、一般高齢者37.7%、事業対象者では40.9%、要支援認定者では16.6%である。
- 参加意向のある方と既に参加している方が参加したい活動は、趣味の活動と運動が多い。1.5~2割程度の方が、地域内の支え合い活動への参加意欲を持っている。



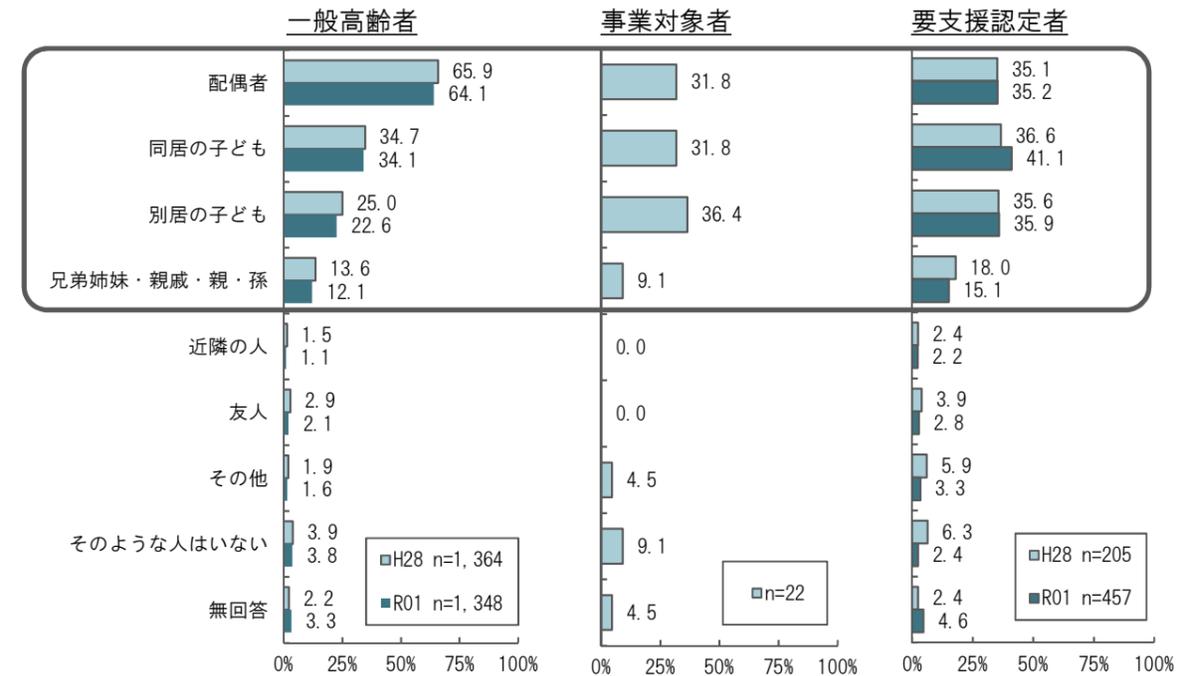
どのような活動に参加したいか (地域活動に参加意向・既に参加していると回答した方のみ) (報告書:P68)



(9) 看病や世話をしてくれる人について

○病気で寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人は家族等の親族が多い。

病気で寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人 (経年比較) (報告書:P73)

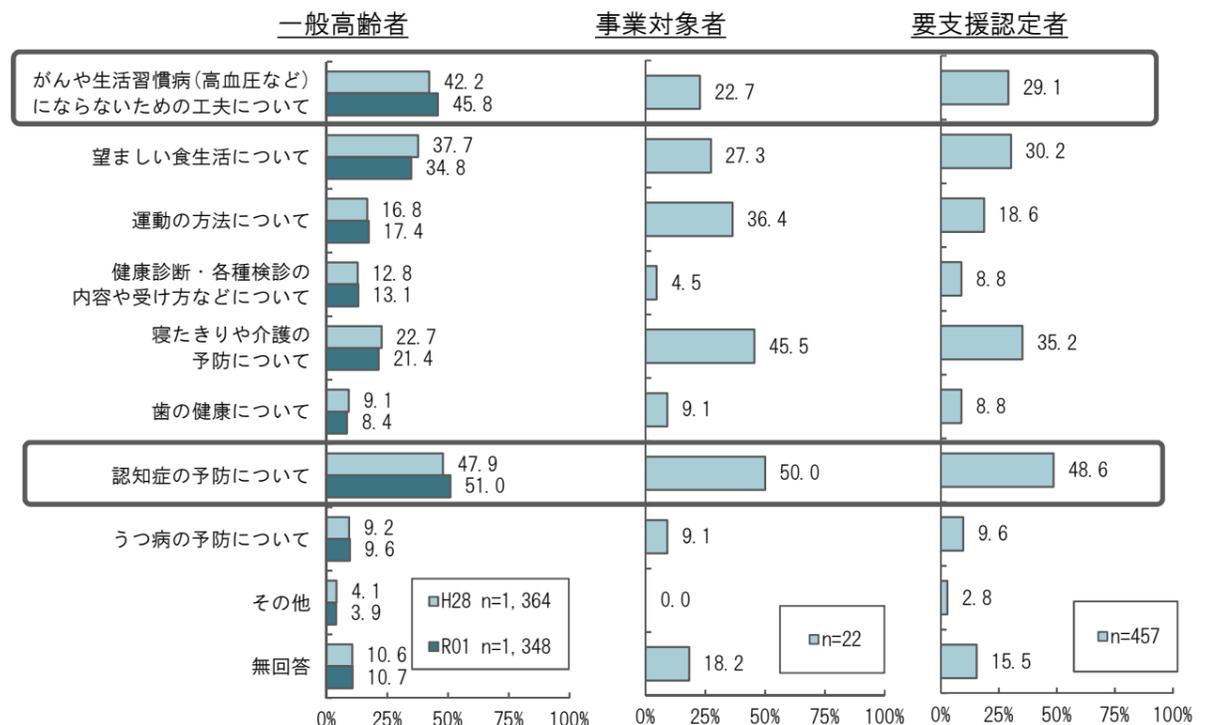


※平成28年度は事業対象者の調査は未実施。

(10) 健康について

○健康について、認知症の予防について知りたい方が多く、次いでがんや生活習慣病 (高血圧など) にならないための工夫について知りたい方が多い。

健康について知りたいこと (経年比較) (報告書:P86)

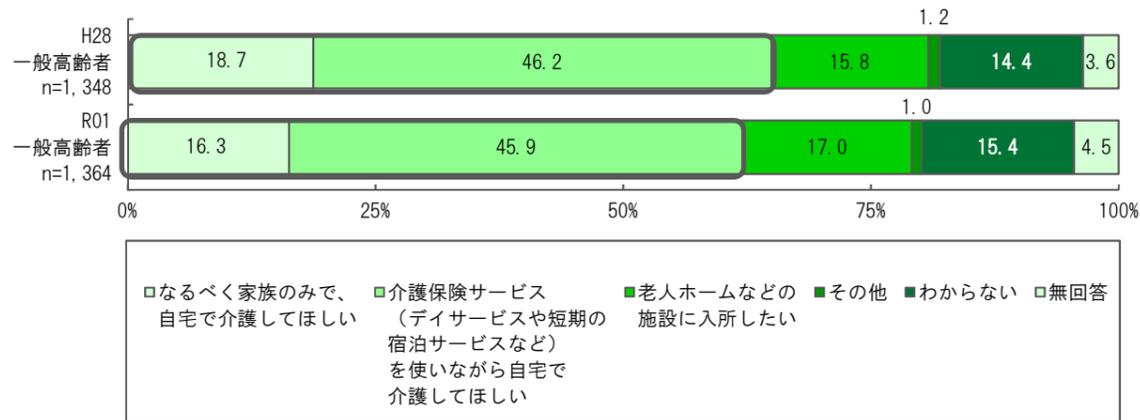


※平成28年度は事業対象者、要支援認定者の調査は未実施。

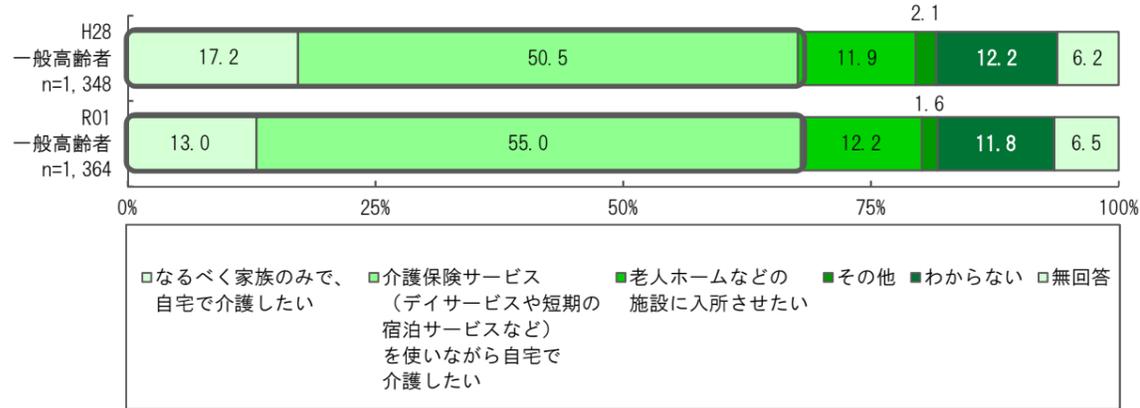
(11) 介護保険サービスについて

- 自身に介護が必要になった場合、自宅での介護を望む方は 62.2%、そのうち介護サービスを利用しながら介護してほしい方は 45.9%で前回調査より微減している。
- 家族に介護が必要になった場合、自宅で介護したい方は 68%、そのうち介護サービスを利用しながら介護したい方は 55%でいずれも前回調査より微増している。
- 現行の介護制度に満足している方は、事業対象者では 53.3%、要支援認定者は 73.4%で前回調査より微増、要介護認定者 87%で前回調査より増加している。

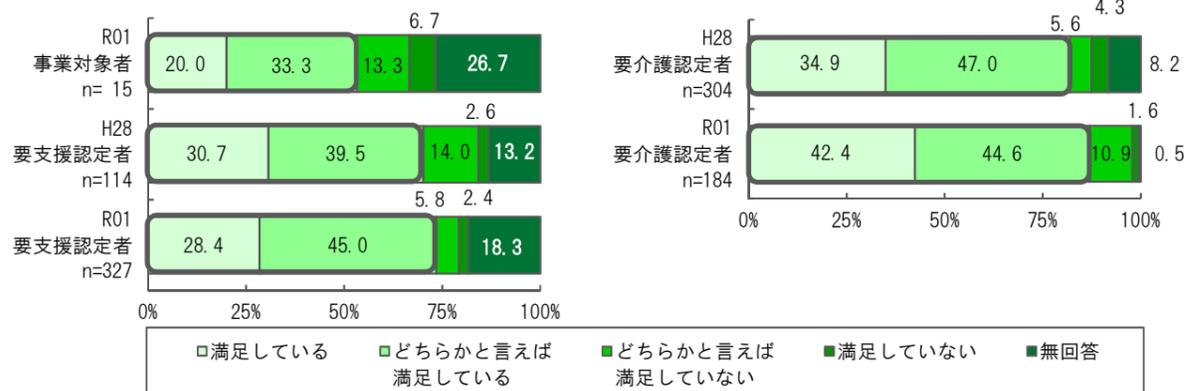
■ あなたに介護が必要になった場合、どこで介護を受けたいか（経年比較）（報告書 P97）



■ 家族に介護が必要になった場合、どのように介護をしたいか（経年比較）（報告書 P98）



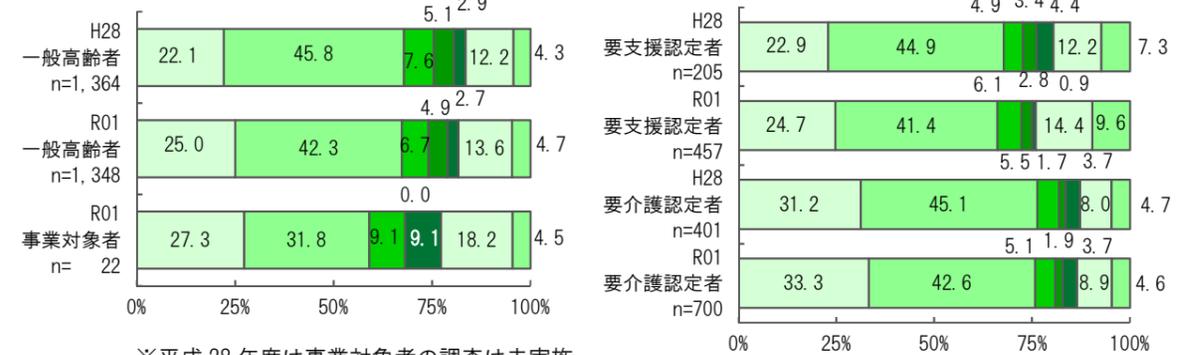
■ 介護保険制度全般についてどう思うか（介護保険・総合事業サービスを利用したと回答した方のみ）（経年比較）（報告書 P106、206）



※平成 28 年度は事業対象者の調査は未実施。

- 介護保険サービスの充実が最小限とし、保険料の負担が増えることをできる限り抑えてほしいと思う方が 30~40%程度であり、前回調査より減少している。一方、サービスを充実させるため保険料の負担が増えてもやむを得ないと思う方は、20~30%程度であり、前回調査より増加している。
- 介護保険サービスでは、在宅で訪問型または通所型サービスの充実を望む傾向がある。要介護認定者では、施設サービスの充実を望む割合も事業対象者、要支援認定者に比べ多い。

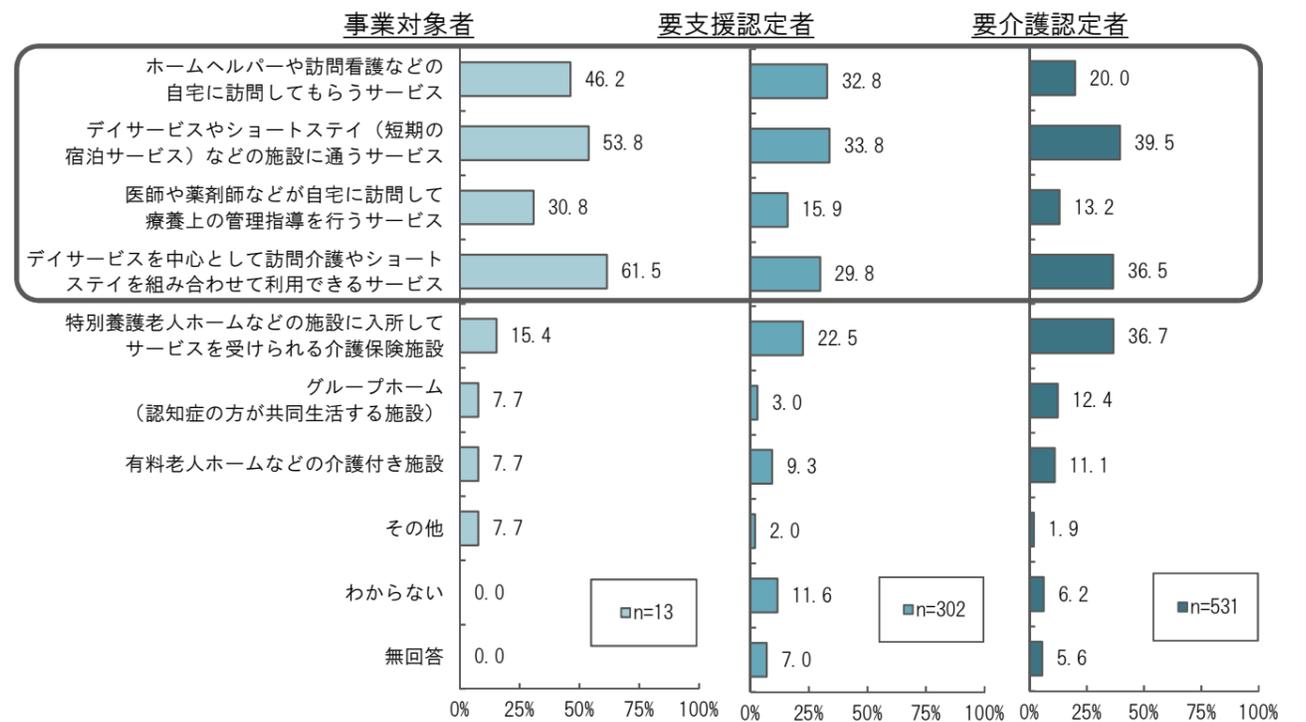
■ 介護保険サービスの充実と介護保険料の負担についてどう思うか（経年比較）（報告書：P110、210）



※平成 28 年度は事業対象者の調査は未実施。

- 介護保険サービスを充実させるために、保険料の負担がその分増えてもやむを得ない
- 介護保険サービスの充実が最小限とし、保険料の負担が増えることをできる限り抑えてほしい
- 保険料の負担は現状程度とし、介護保険サービスの利用者の増加により、介護保険サービスが低下してもやむを得ない
- 保険料の負担を減らし、介護保険サービスの充実を望まない
- その他
- わからない
- 無回答

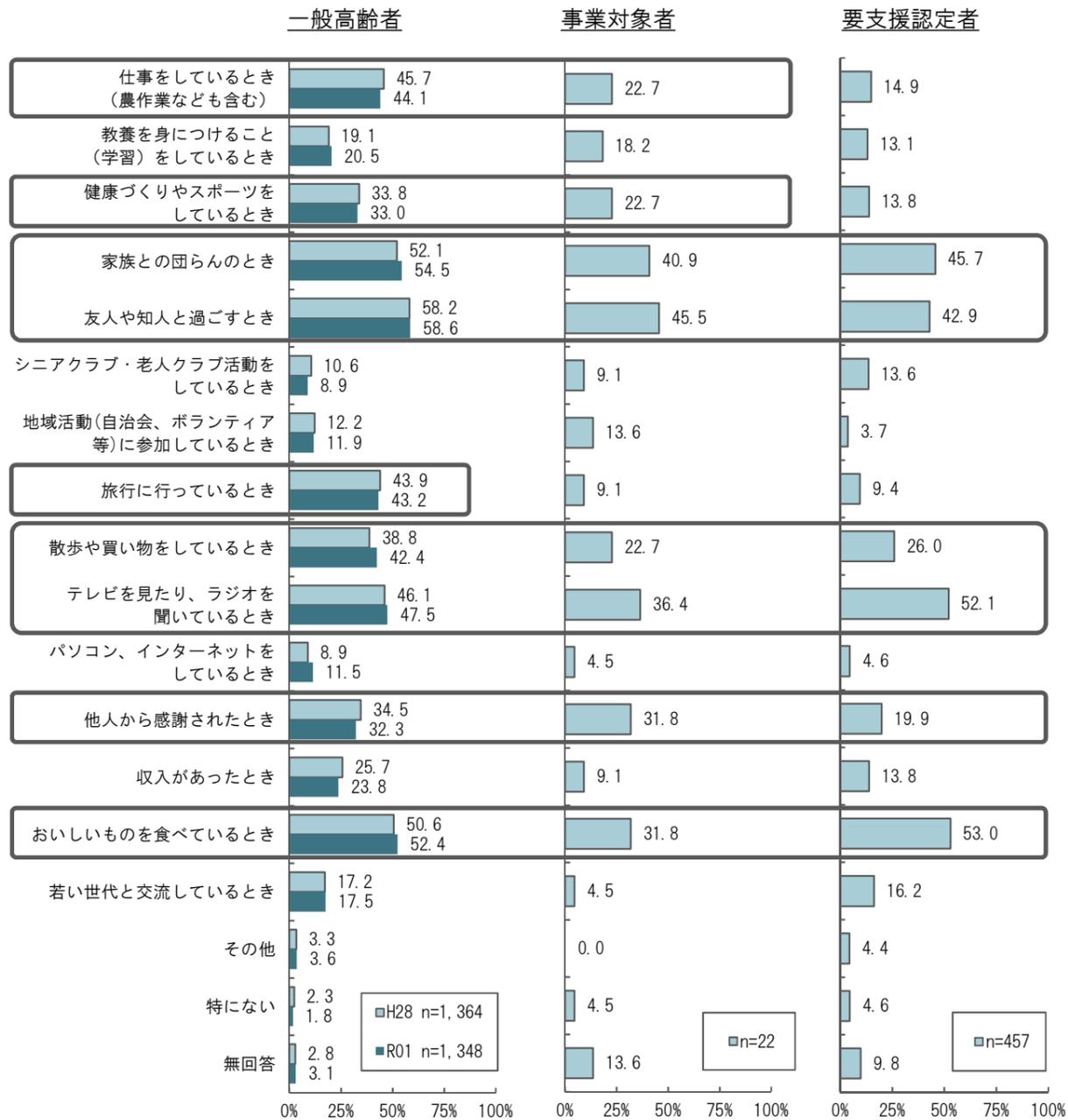
■ どのような介護保険サービスの充実を望むか（報告書：P116、211）



(12) 生きがいについて

○家族や友人と過ごすときや、散歩や買い物、テレビを見たりラジオを聞いているときに生きがいを感じる方が多い。一般高齢者、事業対象者では仕事やスポーツ等をしているときも多い。

■ 生きがい（喜び楽しみ）を感じるのはどのようなときか（経年比較）（報告書：P135、136）

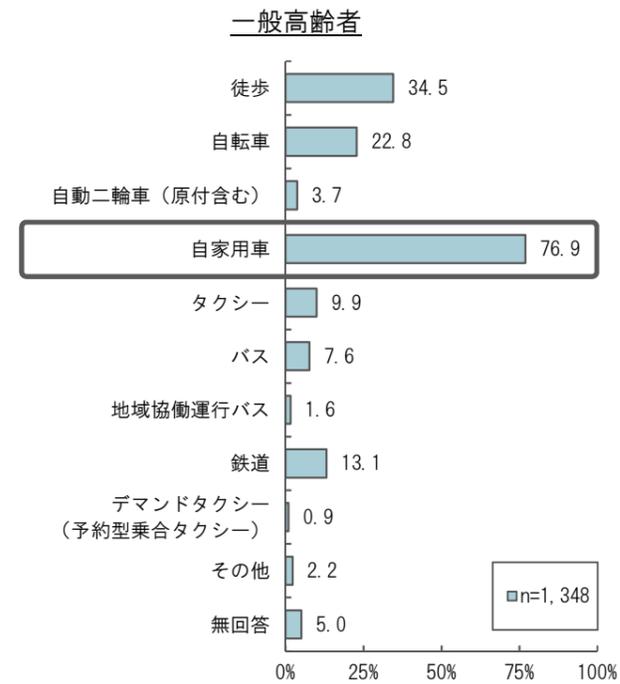


※平成 28 年度は事業対象者、要支援認定者の調査は未実施。

(13) 交通手段について

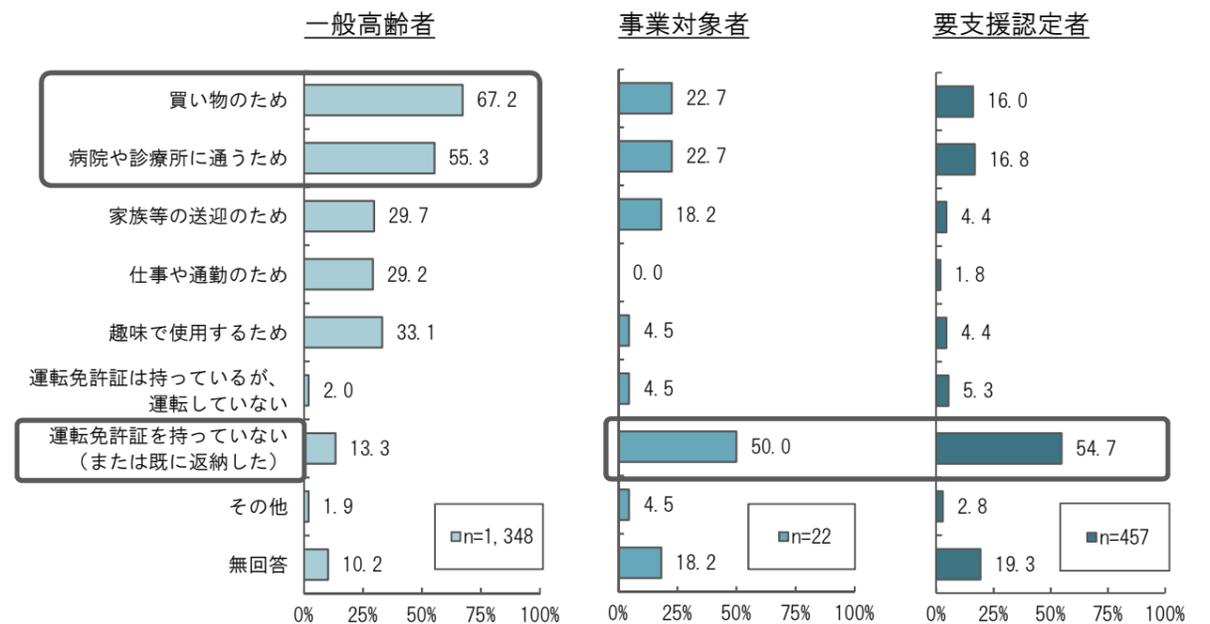
○主に利用する交通手段は、自家用車が最も多い。

■ 主に利用する交通手段（報告書：P159）



○自動車を運転する目的は、一般高齢者では買い物や病院等へ行くためという方が多く、事業対象者、要支援認定者では免許を持っていないまたは既に返納した方が最も多い。

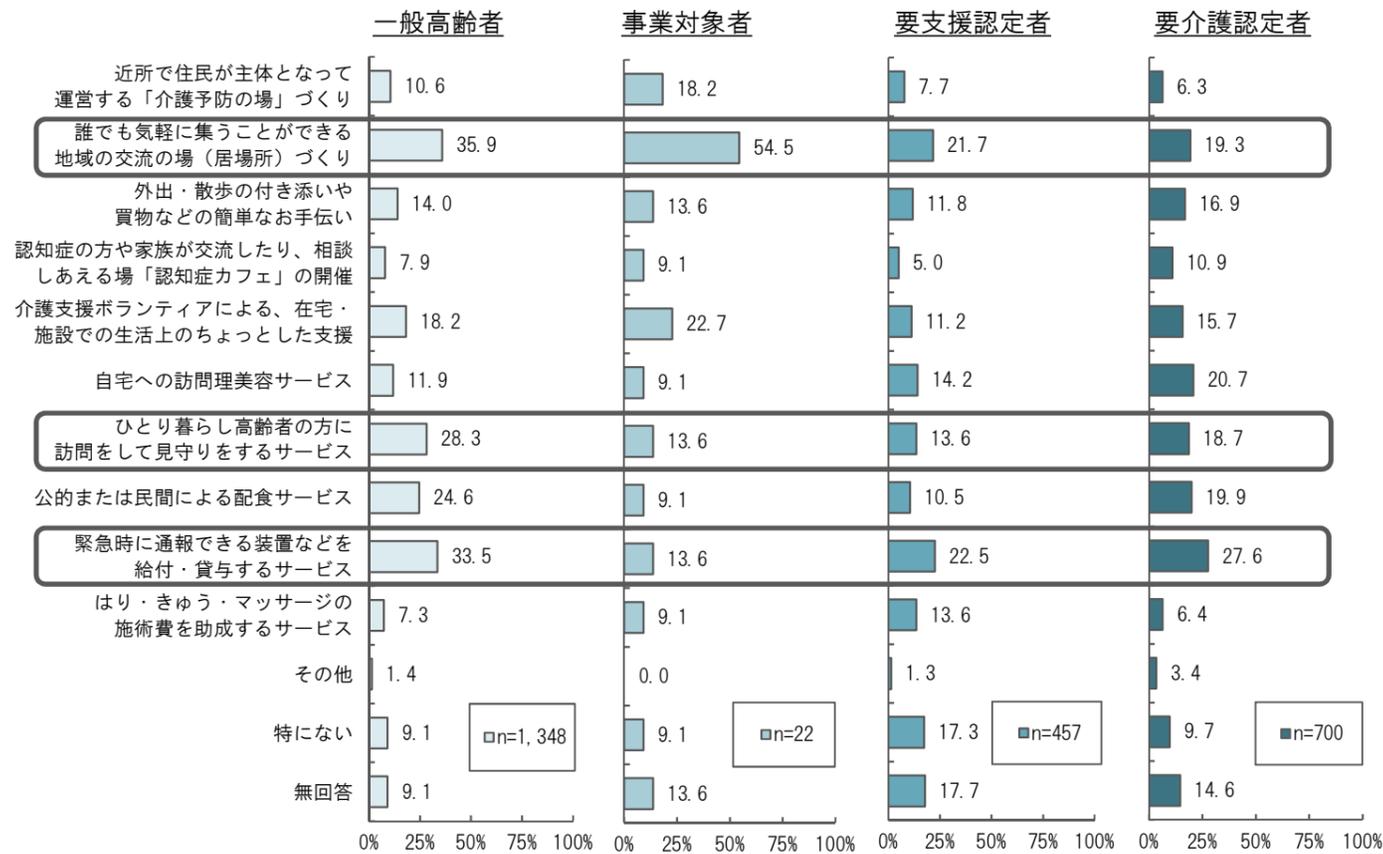
■ 自動車を運転する目的（報告書：P162）



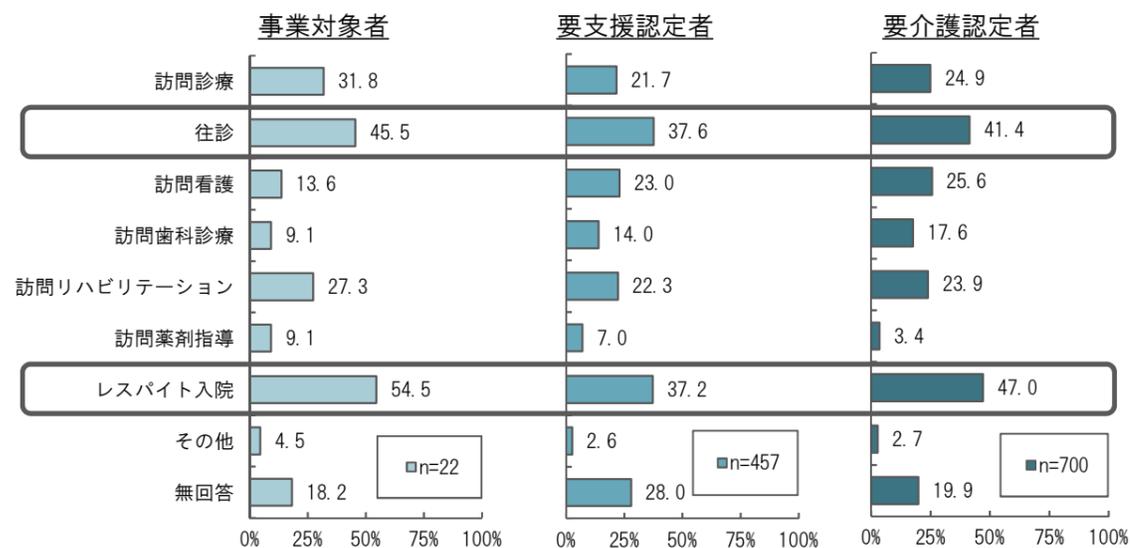
### (14) その他のことについて

- 介護保険サービス以外では、地域内の交流の場の充実やひとり暮らし高齢者の見守り、緊急通報サービスを望む方が多い。
- 訪問型の医療サービスのうち、往診やレスパイト入院（介護者の事情により一時的に介護が困難となった場合に短期入院できる）を望む方が多い。

■ 介護保険制度における介護サービス以外の保健福祉サービスなどについてどのようなサービスの充実を望むか（報告書：P111、112、226）



■ どのような医療サービスの充実を望むか（報告書：P165、231）



### 3 今後に向けての課題

#### (1) 介護予防・重度化防止への取組について

介護・介助が必要となった主な原因は、「高齢による衰弱」が最も高く、次いで「骨折、転倒」、「認知症」となっています。生活習慣病である「脳卒中（脳内出血・脳梗塞等）」、「心臓病」、「がん（悪性新生物）」、「糖尿病」も高くなっています。

転倒については、一般高齢者で約半数、事業対象者・要支援認定者で約9割の方が不安を感じています。BMIで「やせ」に該当する方や1年前に比べ、食べ物や汁物、飲み物でむせることが多くなった方は、一般高齢者に比べ、事業対象者や要支援認定者の方が多くなっています。

このため、介護予防や重度化防止には、生活習慣病予防、高齢によるフレイル（※）に対する取り組みが重要です。運動・栄養・口腔・社会参加の観点から、保健事業と介護予防の一体的な取り組みにより、身近な地域において介護予防教室の開催や参加促進、医療専門職との連携による効果的な予防対策が必要です。

※高齢者の健康な状態から介護が必要になる状態の間にある「虚弱状態」のことで、年齢とともに生じる心身の衰えのこと

#### (2) 生活支援体制整備について

要支援認定者では「歩いて買い物に行くのが大変（または不安）」、「車の運転ができない」、「近くにお店がない（なくなった）」に不安を感じています。ごみ出しでも、ごみの分別やごみ集積所までの運搬が困難と感じている割合が高くなっています。

また、地域住民が参加したいグループ活動は、「趣味」、「運動」、「地域内の支え合い活動」の割合が高く、充実を望む保健福祉サービスでも、「地域の交流の場（居場所）づくり」が最も高くなっています。

このようなことから、生活の中のちょっとした困りごとを助けあえる仕組みや高齢者が気軽に集える場、身近な場所で運動ができる場を増やすことで、住み慣れた地域でいきいきと生活できるよう、地域での支え合い活動の充実や体制整備の推進が必要です。

#### (3) 認知症施策の推進について

健康について知りたいことの中で、「認知症の予防について」が最も高く、介護者の方が不安を感じる介護でも「認知症への対応」の割合が高くなっています。

生活習慣病の予防や社会参加の促進など、認知症の発症を遅らせるための予防施策を推進していくとともに、認知症になっても、住み慣れた地域で、尊厳が守られ、自分らしく暮らし続けることができるように、認知症に対する正しい理解の促進や、本人や介護者を支えるためのサービスや相談支援体制の充実などが必要です。

#### (4) 在宅医療・介護連携の推進について

「1人暮らし」と「夫婦2人暮らし」を合わせた世帯が、一般高齢者、要支援認定者ともに半数近くとなっており、H28調査と比較すると、一般高齢者では「子どもとの2世帯」の割合が1割程度減少しています。

また、病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人は一般高齢者で「配偶者」が最も高く、老々介護の状況になっています。

このような中でも、自分に介護が必要となった場合や、家族に介護が必要となった場合のいずれも「自宅で介護してほしい（したい）」が最も高く、在宅を基本とした生活を望む人が多くなっています。

また、充実を望む医療サービスでは、「レスパイト入院」や「往診」が高く、充実を望む介護保険サービスでも、「デイサービス、ショートステイ、訪問介護」等の在宅サービスへの希望が高くなっています。

このため、在宅医療関係者や介護関係者など多職種が連携して、いつまでも住み慣れた地域で安心して生活を継続できるよう、体制を整える必要があります。